

上野地区まちづくりの進捗状況について

公民学連携組織上野版エリアプラットフォームについて

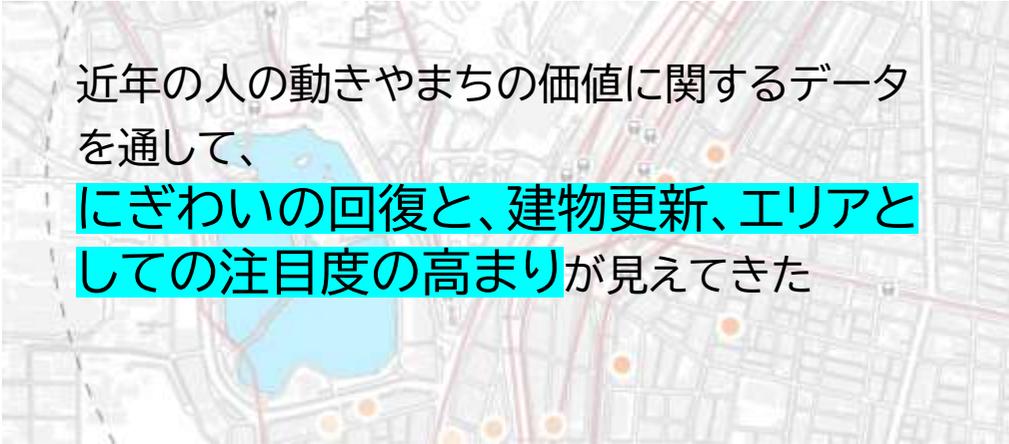
■上野における現状の整理(定量・定性両面から見た上野の現状)

データから見える上野の変化 (=定量的整理)

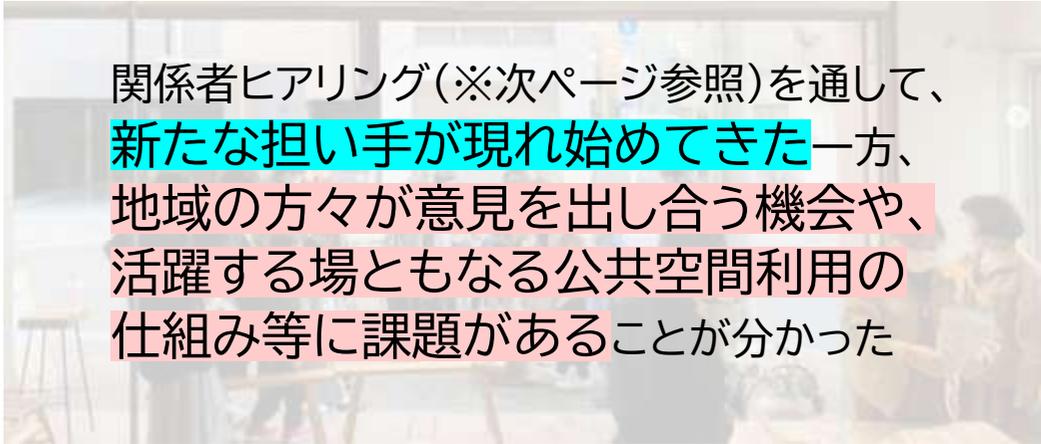
- ①-1.来街者数(外国人観光客を含む)の回復
- ①-2.着実に建物更新が進んでいる
- ①-3.上野駅周辺の地価の上昇

声や現場から見えてきたこと (=定性的整理)

- ②-1.新しいまちづくりの担い手による挑戦
- ②-2.まちづくりへの参画機会の不足
- ②-3.新しい担い手が活躍しにくい公共空間の活用

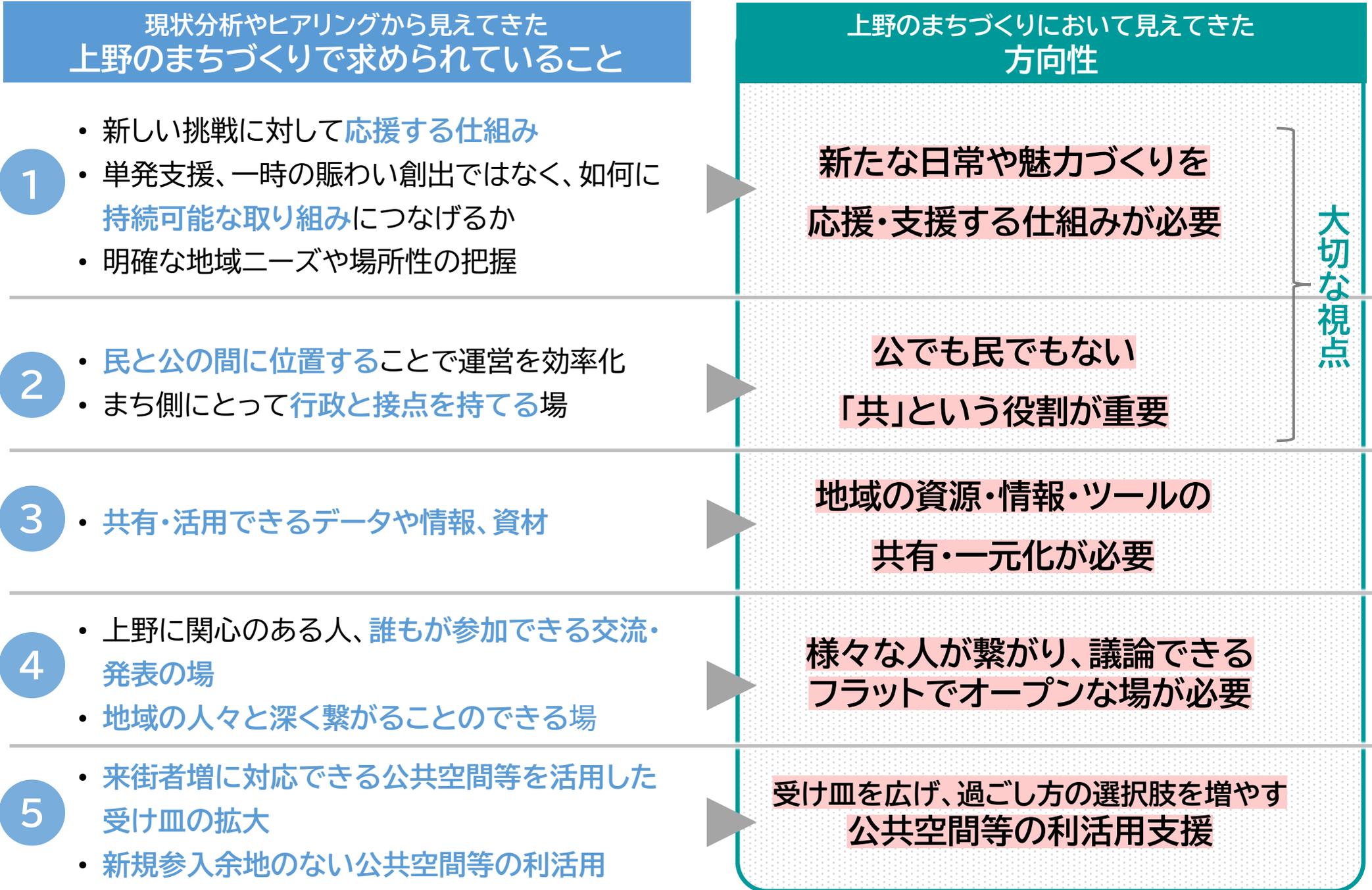


近年の人の動きやまちの価値に関するデータを通して、**にぎわいの回復と、建物更新、エリアとしての注目度の高まり**が見えてきた



関係者ヒアリング(※次ページ参照)を通して、**新たな担い手が現れ始めてきた**一方、**地域の方々が意見を出し合う機会や、活躍する場ともなる公共空間利用の仕組み等に課題があることが分かった**

■上野のまちづくりで求められていること



大切な視点

■ 上野版エリアプラットフォームとは

文化資源の厚み×本物の価値

- ・寛永寺に代表される歴史の積層
- ・東京国立博物館など、世界に誇る文化施設の集積



個性豊かな商店街×大衆文化

- ・アメ横をはじめとする大衆文化の息吹
- ・日常のにぎわいと観光が交差する場



【上野版エリアプラットフォーム】

多様な資源・人とつながり、
「上野ならではの」を創出・発信する
共創基盤

上野の資源を最大限活用する共創の第一歩として、

”フラットに人や意見が集まるオープンな場“の構築

- ・東京藝術大学・東京大学・筑波大学など学術機関と連携
- ・まち全体を「学びと実践のフィールド」に展開

学術的支援×研究フィールド



- ・もったいない余白を活用
- ・公共空間でのチャレンジとつながりを受け入れる新しい場所

豊かな公共空間×新しい居場所

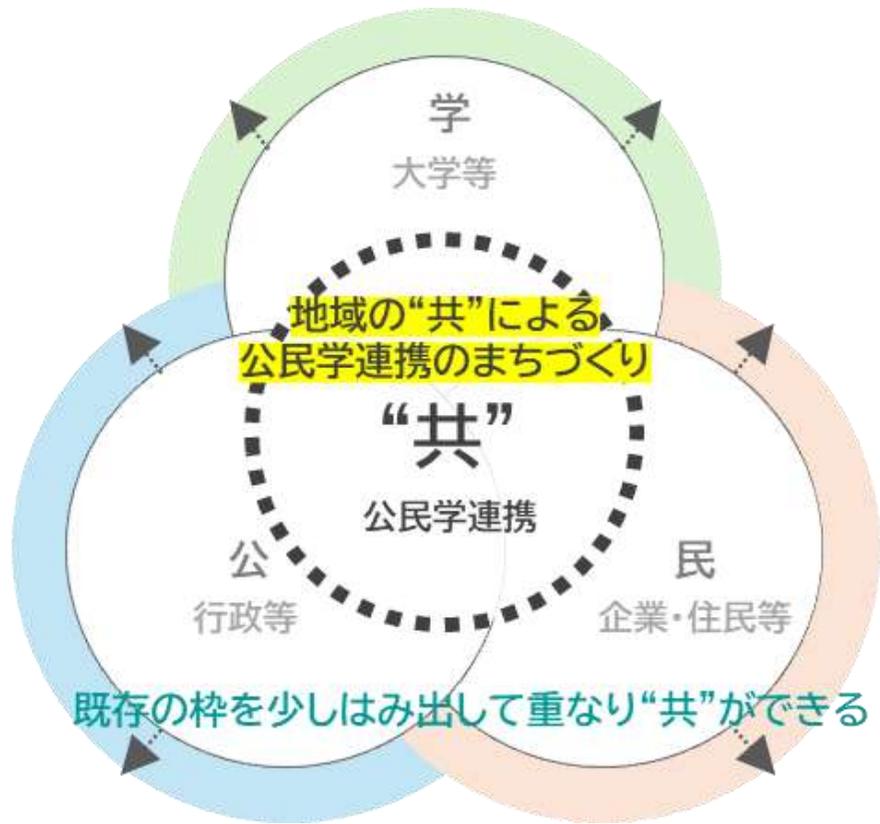


■上野におけるまちづくりで大切にしたい視点と推進体制

上野のエリアプラットフォームで目指すもの

これまでの枠組みを超えた、新たな魅力の創造

大切にしたい視点②



大切にしたい視点①

目的地 = 未来ビジョンに掲げる上野の将来像

今後WS等にて策定



**公民学連携による地域の“共”により、
目指すべき将来像に向けた担い手の活動を応援・支援する**

■上野版エリアプラットフォームの存在意義・将来像・ミッション(案)

※R8年度に実施予定のワークショップ等を通して決定します

PURPOSE

存在意義

上野で湧き上がる“やってみたい”を応援する

内発的な熱意、芽を見つけ、応援し、つながりの輪を広げていく

VALUE

大事にしたい価値観

ワクワクする・はぐくむ・つながる・ひらく・愛着

VISION

どんな上野・シーンを目指すか

ふらっと来て、居たくなる・関わりたくなる上野

日常に溶け込み、関わりたくなる“ひらかれた関係のまち”を目指す

※時間の経過とともに移り変わるもの。目指すシーンは開かれた関係から作る

MISSION

ミッション・なにをするか

つながり、挑戦が生まれる場をつくる

公民学が協働し、内発的な活動を育む仕組みを整える

■上野版エリアプラットフォームの活動

エリアプラットフォームの基盤づくりとなる活動

令和8年度注力



知る・繋がる

**活動の根幹となる
開かれた場**

地域の横ぐしを刺し、一体感を持った活動をする基盤として
フラットにつながり、横連携につなげていく

エリアプラットフォームの代表的な活動

初動期注力



募る

オープンなサロン運営

- 上野にまつわる多様な人が活動・アイデアを紹介・プレゼンを行う
- 小さな魅力を発見し、地域で挑戦したい人を応援する仕組みを作る

初動期注力



使う

公共空間等マネジメント

- 上野地区の使われていない余白の空間を活用することで地域の居場所づくりや魅力創出を行う

初動期注力



稼ぐ

エリマネ広告事業

- エリアプラットフォームの活動を支えるための原資としてエリマネ広告を導入し、持続的なまちづくりを目指す



届ける

一元的情報発信

- バラバラと発信されている上野地区の情報を一元化し、地域内の回遊性向上やリピーターの増加につなげる



評価する

まちづくり活動効果検証

- 学生と連携したりサーチラボ機能を持つことで、社会実験やイベント等の取り組みを評価し、今後のまちづくりの戦略策定等に役立てる



伴走する

地域に根差した人材醸成

- 新たな担い手などにとって良き相談相手としてサポートするとともに、次世代の担い手に対してノウハウの継承等を行う

■次年度の取り組み例

情報発信
口コミ
告知

- ・ 新規活動者の参入
- ・ 開かれた場の拡張

- ・ 場の振り返り

- 開かれた場(仮称) -

第一部:活動者プレゼン/テーマ別プレゼン

- 活動者が取り組むまちづくり活動ややってみたいこと等をテーマ別に紹介
- 参加者同士での興味・関心・抱える課題を共有し、共感や賛同の輪をつくる

テーマ候補

文化歴史・学生・アート・循環・上野らしさ・上野のデザイン・不忍池の生態・上野の桜・
商店会の取組・もったいない公共空間 etc

第二部:ディスカッション/ワークショップ/ブレスト

- 参加者同士の交流、個別のプロジェクトへの発展
- 人繋ぎによる新たな関係・つながりの構築

開かれた場から、公共空間等の活用、日常的な地域課題に目を向ける取組など、多様な形態への発展を目指す。

例えば・・・

公共空間活用

- ・ 公共空間等を活用した実証的・実験的な取組
- ・ 住民、事業者、学生、アーティスト等の多様な主体が関わることで、使い方の幅を拡張し、将来的な活用や制度への反映を目指す。

清掃活動等

- ・ 日常的な地域課題に対して「みんなでやってみる」小規模な実践
- ・ 立場や属性を超えて関わるきっかけになり、だれでも参加しやすい。
- ・ 小さな成果が現れ、参加者の達成感やまちへの愛着を強める。

情報発信

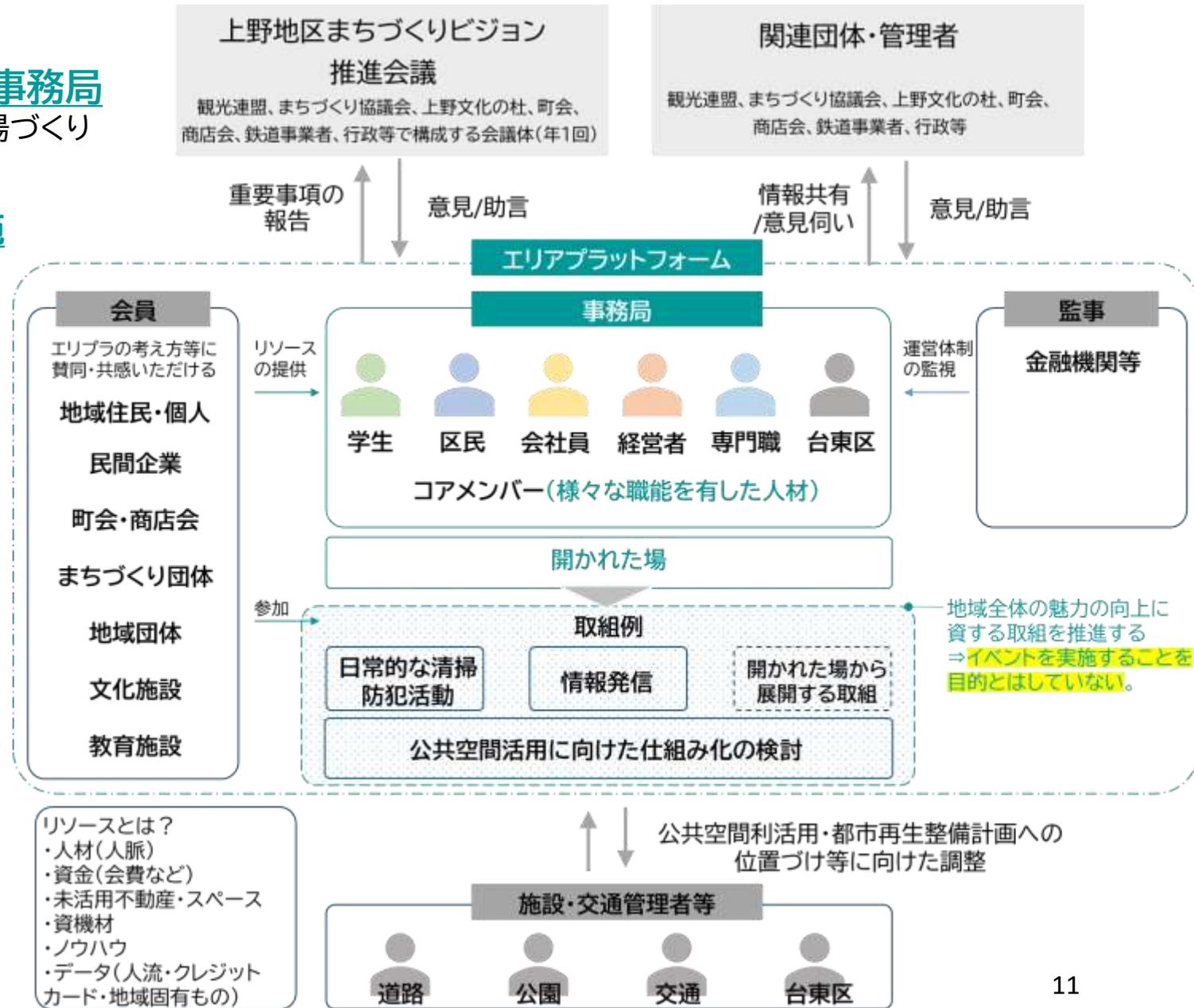
- ・ 地域ライターの募集、インタビューを通じた魅力的な人の発掘
- ・ 上野に特化したニッチな記事をアーカイブ化
- ・ まち×杜のクロス発信(ex.まちの人が選んだ〇〇展のこの一枚)

民間施設等を活用したネットワーク化

- ・ 民間施設等を活用した活動機会の発掘・マッピング
- ・ 学生やアーティストの作品展示の場の探索・ネットワーク化

■今後の進め方

- R7.10 活動者ヒアリング
- R8.3 上野版エリプラ準備会 仮事務局
(ヒアリングメンバーで開かれた場づくりを試行のうえ組成)
- R8.4~ 開かれた場づくりの実施
- R9年度以降 エリプラ立ち上げ
- R10年度以降 未来ビジョン策定



■収益源・資金調達の方

エリアプラの収益事業となり得るものの既存の枠組みでは不可

会費・負担金

- エリアプラットフォームに所属する法人・個人・団体等から徴収した会費や負担金をエリアプラットフォームの活動費として充当する

エリアマネ広告収益

- 上野地区の既存のフラッグ等を活用し、第三者広告を展開することで広告掲出料金をエリアプラットフォームの活動費として充当する

公共空間等の運営

- 公共空間等の1次使用者となり日常管理等を行い、イベント等で2次使用者に貸し出すことで使用料を活動費に充当する

※現時点で特定の場所・施設を示すものではありません。

必要条件① 台東区が「都市再生整備計画」を策定すること

- 都市の再生に必要な公共公益施設の整備等を重点的に実施すべき区域を指定し、計画への位置付けをきっかけとして、民間の取組を促進することが可能に

必要条件② エリアプラが「都市再生推進法人」に認定されること

- まちづくりの新たな担い手として行政の補完的機能を担いうる団体として市区町村が指定をする団体
- 都市再生推進法人は「都市利便増進協定」への参画が可能となり、この協定により公共空間での収益活動が可能となる

■組織形態の考え方

活動する上での制度活用※の手段として、都市再生推進法人を目指す



※都市利便増進協定を想定

■収益の考え方

¥ エリプラ収益事業
(エリマネ広告、公共空間等使用料など)

再投資

+α
収益活動の
さらなる拡大

まちづくり活動
(公益活動、課題解決活動など)

事業収益をまちづくり活動へ再投資

再投資先 例1) 萌芽する活動の支援による魅力づくり

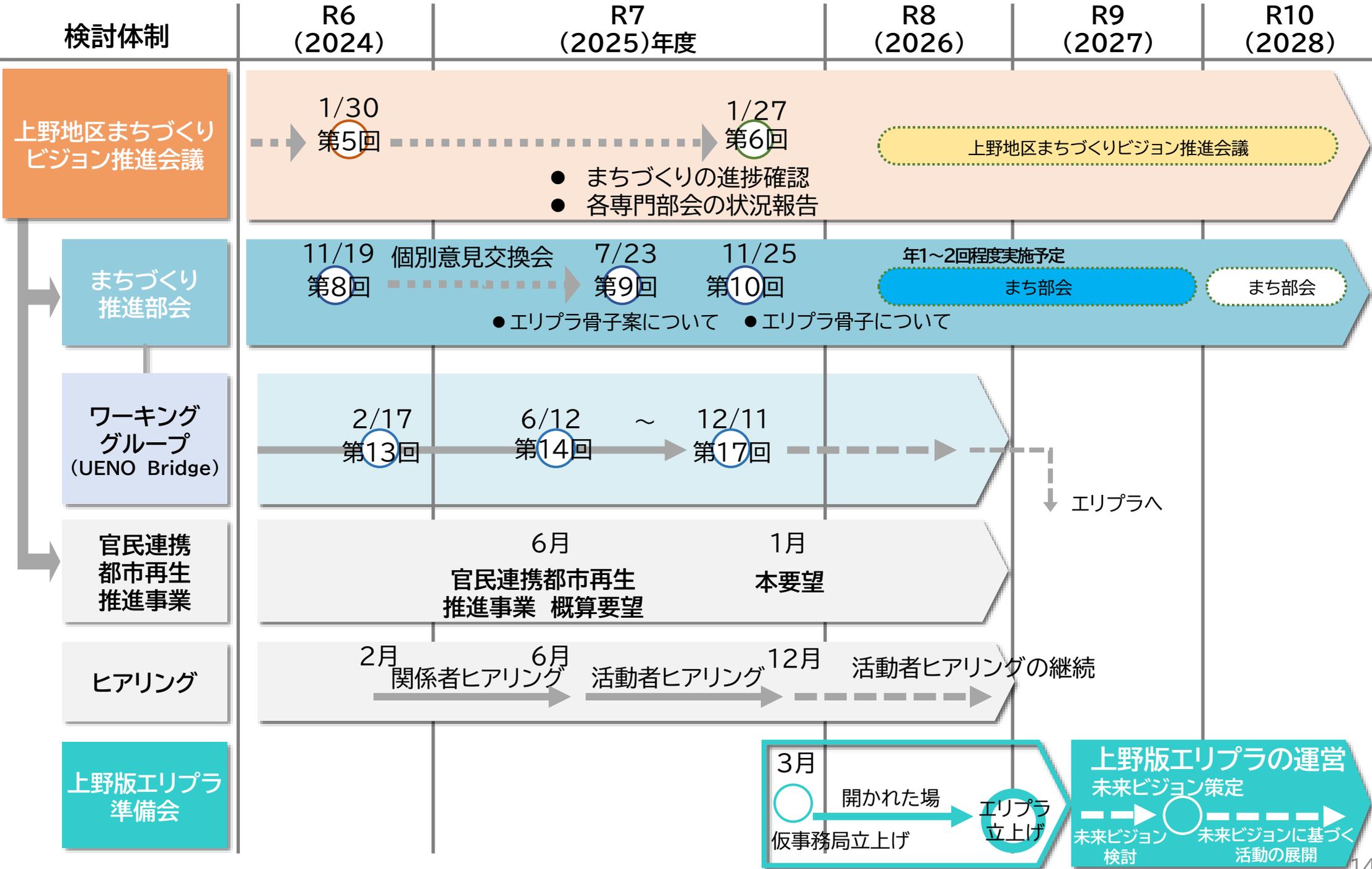
再投資先 例2) 日常的な地域課題の解決
(防犯・清掃等の面的課題)



上野6丁目ではごみの多さが見るに堪えない。ゴミや吸い殻のポイ捨てが多いため、清掃活動に取り組んでいる

公民学連携組織上野版エリプラットフォームについて

■ 検討スケジュール イメージ



○これまでのまちづくり推進部会(第9・10回)での主なご意見

(上野版エリアプラットフォームの組織構築・運営方針)

- 区が前面に立つよりも、活動をしている民間の顔が見える組織を構築できるとよい。また、人選に留意すれば賛同者が自然と集まる組織を作ることができるのでは。

(ステークホルダーの参画意欲・動機付け)

- 杜側の文化施設は各館単独での取組が多い。彼らが参画したくなる特徴や一緒に取り組んでいくための動機付けがあるとよい。
- 分かりやすい実績を作っていくことでエリプラに参画したいと思ってもらえるのでは。エリプラができたことで、みんながやりたかったことが実現したなど。

(開かれた場づくり)

- 開かれた場づくりを行う中では、特定の主体の固定化が見込まれるため、組織としても新陳代謝を促す仕組みづくりが必要ではないか。
- 「開かれた場づくり」を行うにしても、ただ話をするだけの会議を忙しい中で参加するのは億劫になってしまう。そのため、それぞれの参加者に一定の役割を与えることも必要ではないか。

(制度・基準の整理)

- 都市再生推進法人を目指す上では、区は何を基準として認定をするのか、またエリアプラットフォームは何を実績として認定を取りに行くのかを検討する必要があるのでは。

ワーキンググループUENO Bridgeの活動状況

2025年度 まち部会WG

- 2022年度に設立した「まちづくり推進部会ワーキンググループ“UENO BRIDGE(以下、UB)”は、昨年度のサロン形式での会議を継続し、個々の取組の共有や具体的な取組アイディアの議論が見られ、具体的なアクションに繋がっている。
- WG以外に個別会議の実施やLINE等での情報共有も活発化しており、チームの雰囲気醸成されている。

■まち部会WGの開催状況

第13回 日時: 2025年2月17日(月)
場所: 日建設計竹橋オフィス

第14回 日時: 2025年4月10日(木)
場所: 日建設計竹橋オフィス

第15回 日時: 2025年6月12日(木)
場所: 多慶屋

分科会 日時: 2025年7月10日(木)
場所: ワークスタイリング上野

- 中国人アーティスト・陳氏との打合せに向けた確認

打合せ 日時: 2025年7月10日(木)
場所: ワークスタイリング上野

- 中国人アーティスト・陳氏との打合せ

第16回 日時: 2025年8月20日(木)
場所: 上野区民館

- UBメンバーによる情報共有と意見交換
- PANDARTプロジェクトに関する検討

第17回 日時: 2025年10月9日(木)
場所: グリーンパーク(上野公園)

- ウエノ. デ. パンダ中秋節の報告
- PANDARTプロジェクトに関する検討

第18回 日時: 2025年12月11日(木)
場所: 日建設計竹橋オフィス

- 春節祭に向けた企画について

第19回 日時: 2025年2月12日(木) 予定
場所: 調整中



■参加プレイヤー 一覧 (敬称略)令和7年11月時点

いとう たつや 伊藤 達矢	東京藝術大学社会連携センター 教授 とびらプロジェクト
おかべ たかひろ 岡部 隆宏	上野文化の杜新構想実行委員会 事務局長
さくらい まさと 桜井 正人	上野中央通り商店会会長 御徒町駅広場周辺地区まちづくり協議会 理事 藝を育むまち同好会
たなか ゆう 田中 勇	株式会社セレナ ジュエリータウンおかちまち 藝を育むまち同好会
ま やくげん 馬 躍原	株式会社多慶屋 マーケティング部 藝を育むまち同好会
まえかわ ひろみ 前川 弘美	藝を育むまち同好会、しのばずいけまち研究会
まのめ さわこ 馬目 佐和子	ジュエリデザイナー Acute Accent 東京藝大卒業・修了、台東デザイナーズビレッジ
もりしげ しんご 森重 伸悟	上野ユーワンビル 五條天神社 上野 元黒門町々会青年部部長 しのばずいけまち研究会
やまざき さとし 山崎 聡	アメ横コミュニティ株式会社 代表取締役

ワーキンググループUENO Bridgeの活動状況

■プロジェクト例:多慶屋前区道の利活用(7/30~8/3)

- 株式会社多慶屋の馬氏による、地域コミュニティの形成と地域活性化を目的とした3回目の区道利活用社会実験。
- 交通規制の下、テーブル・イスの設置を行うことで地域住民が気軽に集える憩いの場を提供。
- 同日に行われた町内会の盆踊りにもスタッフを動員し、イベントとの連携を図る取り組みとして試行

○これまでの活動経緯

第1回 2024.11

- コミュニティづくりと賑わいづくりを目的に区道利活用に初挑戦
- 区道に交通規制をかけ、テーブル・ベンチを設置することで滞在快適性向上を狙う

第2回 2025.05

- 第1回の取組に路上アートの要素を追加。それによりコミュニケーションの機会が増加。

第3回 2025.07.30~08.03

- 初めての平日における区道利活用を実施。
- 御徒町二丁目町会の盆踊りと同日開催し、地域活性化を図る。



御徒町台東中学校

御徒町公園
(盆踊りを同日開催)

■プロジェクト例:多慶屋前区道の利活用(7/30~8/3)

- 株式会社多慶屋の馬氏による、地域コミュニティの形成と地域活性化を目的とした3回目の区道利活用社会実験。
- 交通規制の下、テーブル・イスの設置を行うことで地域住民が気軽に集える憩いの場を提供。
- 同日に行われた町内会の盆踊りにもスタッフを動員し、イベントとの連携を図る取り組みとして試行

○御徒町二丁目町会の現状

高齢化による地域活動の担い手不足
⇒地域活動(盆踊り等)の継続が困難に

多慶屋のスタッフを動員し
地域活動の継続と区道の賑わいづくりの両立

○区道利活用による効果

- 利用者数: **200名(合計4日間)**
- 平均滞在時間: **約10分**
- 利用者評価: **90名**が今後の継続を希望

【主なコメント】

- 買い物途中のひと休みにこのような椅子やテーブルがあると助かる。
- 歩行者天国にしてこのようなスペースを設けるというのは良いアイデアだと思う

○当日の風景



ワーキンググループUENO Bridgeの活動状況

■プロジェクト例:PANDART

- 馬氏がきっかけとなり、UBとして検討中の「PANDART」の参考となる企画「GOGO PANDART」を全世界で展開する中国人アーティスト陳氏とのコンタクトに成功
- UBメンバーと個別打合せや桜井氏の尽力を通して、陳氏の協力の下「ウエノ.デ.パンダ中秋節」にてGOGO PANDAとUENO Bridgeのコラボ企画としてパンダのオブジェを設置。

UBが大切にしている考え方の整理(R4~R6)

多様な人の居場所づくり

社会課題の解決に貢献

具体的な
アクションの検討へ



第9回UB(2024年6月) 馬目氏よりご提案



- 若い世代に向けて共感してもらえるわかりやすいアートが必要
- コンセプトを知らなくても参加したいと思えるアート(パンダ)を上野公園に散らばめたい
- デザインは公募で広く募り、自身の才能の発掘や若手アーティストのアピールなどの場に

パンダ文化を世界に発信する
アーティスト陳氏との出会い
(馬氏が発案した視察イベント)



第10回UB(R6~)
賛同者を募るためにPANDARTの
企画書の検討を開始



2025年9月19日~
桜井氏の尽力により
「ウエノ.デ.パンダ中秋節」にて陳氏とUBのコラボ
ブースが実現

■プロジェクト例:PANDART

- 上野地区において、外部のパートナーと協同した企画が実現し、GOGOPANDAの作品はフォトスポットとして多くの人が写真撮影を行うフォトスポットとしてにぎわい創出に寄与
- 藝育会とのコラボが実現し、上野地区のアーティストの活躍の場の創出に貢献

⇒コラボの際に得られた課題感や印象等を踏まえつつ、UBとして重要視していた考え方(居場所づくり、社会課題解決等)に立ち返った企画実現を春節祭(2/13~15)を目標に活動中



(参考)春節祭での実施企画—UENO Bridge プロジェクト—

中秋節
の取組 =



春節祭
の取組 =



ueno杜まちふらりデジタルスタンプラリーの取り組み

ueno杜まちふらりデジタルスタンプラリーの取り組み

○2025年で実施したデジタルスタンプラリー

合計**14**のスタンプラリーが開催され

延べ**9,822**人が参加



○2025年におけるデジタルスタンプラリー参加者の傾向

【参加者の居住地】

- 首都圏の参加者が大半を占める
 - 東京に次いで千葉からの参加者が多い
- ⇒日帰り等の近傍来街者に対して、一定の集客効果があることが考えられる

【参加者の年代】

- 全体として女性の割合が多い傾向
 - 20代から50代の利用者が多い傾向
- ⇒若者から壮年世代まで幅広く受け入れられているコンテンツと推察できる

